

# 山本一清先生資料の概要

富田良雄

## 1 京都の天文学の偉人

京都の天文界をリードした二人の偉人がいる。ひとは京大宇宙物理学教室創立者であり第八代京大総長、第二代上海自然科学研究所長をつとめた新城新蔵である。もうひとつ方は東亜天文学会創立者のひとりで初代花山天文台長をつとめた今回の主役山本一清である。



新城新蔵博士 (1873-1938)



山本一清博士 (1889-1959)

新城の塊集していた漢籍・古典籍等は没後の1943年に国立国会図書館に買い上げられ新城文庫と名づけられて閲覧に供せられている。書簡や写真等は女婿であった荒木家に保管されていたが、2000年に宇宙物理学教室の図書室に寄贈され、京大新城文庫と命名され研究用に公開されている<sup>1)</sup>。山本の資料は今回はじめて京大に寄贈されたものである。

## 2 経過

山本の資料は、京大を辞した後に実家に建造した田上天文台<sup>2)</sup> (のち山本天文台と改称) にあり、山本が死去した後も永らくそのまま手付かずにて保管されていた。筆者は反射鏡研磨の達人と評された中村要の伝記を出版するため、2000年頃に山本天文台を訪問したおりにその膨大な資料の一角を拝見した。山本天文台の中心的存在であったカルバー46cm 反射望遠鏡は数奇な運命をへて、信州の山奥の小川天文台に保管されていた。それから十数年が経過して、このたびその両者が時を同じくして京大に寄贈される運びとなったのである。

反射望遠鏡をめぐる経緯については寄贈くださった坂井義人氏が一文を用意されているのでそちらを一読してほしい。山本天文台資料は、昨春柴田花山天文台長から山本家に問い合わせの手紙を送り、秋に親戚の成子氏の仲介により総合博物館、花山天文台の関係者数名が訪問して現状を確認することができた<sup>3)</sup>。またその際に山本家から全資料の京大への寄贈の意向が伝えられた。今春二度にわたり資料受け入れ準備のため京大研究資源アーカイブの五島を中心に見積調査が行れた。そして6月下旬に搬出・京大搬入となった。



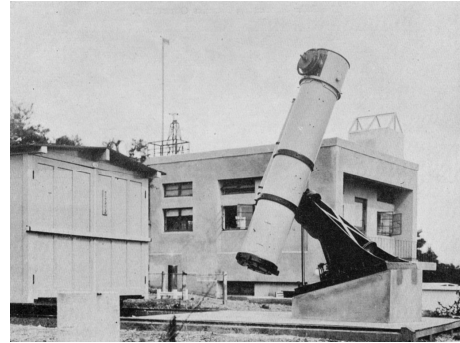
草津川土手から北に山本天文台を望む。



山本家の門。中間部屋の上に第一観測室がある。



左が研究棟、右が土蔵の上に増築された第二観測室



花山天文台に設置されていた頃の  
カルバー46cm 反射望遠鏡<sup>4)</sup>

このようにして半世紀ぶりに山本天文台資料の全容が明らかになる端緒が開かれたのである。

### 3 資料概要

今回の資料はつぎの3つの部分からなる。1) カルバー46cm 反射望遠鏡とその関連資料、2) 観測関連道具類、写真乾板、3) 書類(書籍、雑誌、私信、その他) 約600箱である。このうち1) は長野県小川村の坂井氏からの寄贈品で花山天文台太陽館地下室に保管、2) と3) は山本天文台からの寄贈品で、2) の写真乾板は花山天文台太陽館1階に、2) の観測道具類等と3) は京大北部総合教育研究棟(益川記念館)205号室に保管されている。



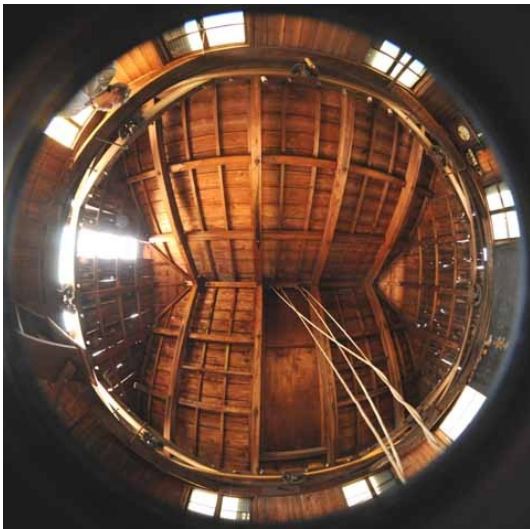
保管室物品コーナー



書類のつまったダンボール600箱の山

#### 4 今後の調査・構想

山本天文台資料は膨大であり、今後数年をかけて整理作業と調査研究がおこなわれる予定である。そしてまとまったものから研究資源アーカイブとしてデータが公開される。カルバー望遠鏡については組み立て修復・復元をおこない花山天文台敷地内に動態で展示できるように考えている。この望遠鏡は製作されて百年以上が経過しており、第一線での研究用に供することは無理であるが、天体観望などを通じて市民に親しんでもらうことは可能であると考えている。また道具類と書籍などの一部を用いて山本先生の書斎を復元し、日本の天文愛好家の育成をはかり世界をリードした先生のしごとのようすを見学者に実感してもらえるようにしたい。



三角屋根回転ドームの内部（魚眼レンズ撮影） 望遠鏡のピアーを貫き地下室までつづく深さ 7m の縦抗

搬出作業が済んで後、京大建築学教室の山岸先生の指導のもとに天文台建物の調査が始まった。滋賀県の近代化遺産の調査は平成 15 年ころに終了しているが、当然建築遺産として登録されていなければならないはずの山本天文台は抜けていたそうである。8 月 20 日から 5 日間かけて元滋賀県文化財課の建築コンサルタント、学生数名がはいて調査をおこなっていただいた。結果についてはその概略を報告いただくことになっている。

#### 参考文献

- 1) 新城文庫目録、新城文庫研究会、2000.
- 2) 『天界』、第 34 巻、第 344 号、田上天文台特集、1953.
- 3) 第一回京大天文台アーカイブプロジェクト報告会収録、2011.
- 4) Publications of the Kwasan Observatory, vol.1, No.1, 1929.